

トレードマークのパイプを銜えながら、鋭い視点で辛辣に世相を斬る竹村健一さん。六〇年代にモーレツブームを巻き起こすと以後、五〇〇冊以上の著作をはじめテレビ・ラジオなど幅広いメディアで活躍し、論壇に不動の地位を確立した。そして八〇歳を過ぎた今もなお、その発言力や洞察力は衰えることを知らない。今回はそんな竹村さんの半生の回想録。ご自身の意外な素顔も覗かせてくれた。

木村 ごぶさたしております。ところで、おいくつになられましたか？

竹村 この四月で八二歳になります。一九三〇年生まれです。

木村 変わらずお元気ですよ。

竹村 毎年スキーをやっているのですが、今年はまだやれていない。ソニーの盛田さんがお元気な頃は、毎年沖繩やハワイに行ってスキューバダイビングもやっていました。最近はそのもやっつてないね。昔は石原都知事も、よく一緒に海に潜ったりしましたよ。

木村 スキーやスキューバダイビングは相当体力を使いますもんね。竹村さんはピアノも

お弾きになられますが、最近はいかがですか？

竹村 ピアノは自宅に四台、北海道の別荘とテニスコートに一台ずつ、箱根の別荘に二台と、計八台持っております。その時々に行っては弾いています。

木村 八台とはすごい。でも、それだけ置けるくらいに家が広いということですね。

竹村 不思議とピアノだけはようけある。世話になって調律師の方が本を出してね、その出版記念のパーティーで挨拶をしたんですが、「僕には自慢できるものは何もないが、ピアノだけは八台持ってます」と言いました

わ。

木村 本当に多趣味でびつくりします。ダンスもされるそうじゃないですか。

竹村 最近はやる相手がおらんです。

木村 確かお生まれは大阪ですよ。で、中学のときに兵庫に疎開されたそうですね。

竹村 但馬地方の生野町ですね。奇しくも大阪の生野中学校から、兵庫の旧制生野中学校に転校したんですよ。今でも同窓会の通知が来ると、どっちの生野中学か分からなくなる(笑)。その後、旧制の姫路高校に進学し、一年のときに学校制度が変わって、翌年に新制の京都大学に編入しました。まさに端境期ですよ。時代の最後であり、最初でもあった。

木村 どのような学生時代だったのですか？

竹村 あの頃の大学は、新制大学になったばかりということもあるので、授業に出なくても卒業できたんです。そのかわり、一〜二年のときは兵庫県朝来町の山口中学校に、三年のときは宝塚第一中学校に、英語の臨時講師として派遣され、毎日教壇に立っていました。その間、大学に行くのは試験の時だけ。四年になってようやく大学に行こうと思ったのですが、ちょうど社交ダンスに凝りだしてね。半年間、毎日レッスン場に通って、

才能なんて関係ない。
ただ、好きなように
生きてきた。

竹村健一(たけむら・けんいち)昭和5年、大阪生まれ。京都大学英文科卒業後、第1回フルブライト留学生としてエール大学・シラキュース大学大学院、その後ソルボンヌ大学で学んだ後、「英文毎日」の記者、山陽特殊鋼調査部長、追手門学院大学准教授、拓殖大学客員教授を経て現在に至る。著作は500冊を超え、テレビやラジオなど幅広い分野で活躍。また、竹村健一未来経営研究会では、全国に組織されている「竹村会」を通じて地域発展のために各地の経営者との勉強会を実践している。代表的著書に「マクルーハンの世界」「五人の猛烈なアメリカ人」「自分の会社を持ちなさい」など。また、ピアノ、社交ダンス、テニス、スキー、ヨット、スキューバダイビングなど多趣味なことでも知られている。



ダンスの先生の免状を取りました。

木村 京大を卒業後、アメリカに留学されたのですよね。きっかけ何だったのですか？

竹村 毎日新聞社の英文毎日編集部でアルバイトを始め、日本文化を世界に紹介する記事を書いていたんですよ。そうしたらフルブライト財団が主催するフルブライト奨学金制度の第一号に選ばれましたね。それでアメリカに渡りました。今でもよく覚えているのですが、当時の飛行機はアメリカ本土まで直接は飛べないので、ウエーク島、ハワイ島と経由するんです。そのウエーク島に自動販売機があつて、お金を入れるとジュースが出てくる。それ自体にも関心したのだけれど、それ以上に驚いたのが、その精密さ。ジュースが一本二五セント、当時の日本円で約四〇〇円だったのですが、二五セント硬貨と日本の十円玉

が形や大きさが同じだったので、十円でジュースが買えれば大儲けだと試しに入れてみたんです。ところが何度やっても十円玉が戻ってくる。これは我々より賢いと。アメリカはすごい国やと。それがアメリカに対する最初の衝撃でした。

木村 アメリカにはどのくらいの期間いらしたのですか？

竹村 一年間。まずエール大学で三カ月の研修があつて、その後ニューヨーク州に渡って、シラキユース大学で学びました。僕は京都大学を卒業していたので、シラキユースの大学院に入ったんだけど、そこでもあまり勉強した記憶はありませんね。だから日本時代も含めて、僕は大学の勉強をほとんどやっていないんです。

木村 勉強した記憶がなくても卒業できた

竹村 英字新聞なので「社交界の催し」という欄がありまして、よくその取材に出かけていたんです。ある日、社に戻ったらデスクがものすごい剣幕で「お前、どこ行ってたんだよ」って怒鳴るので、「ダンスの取材に行つてましたよ」と言い返したら、写真を一枚渡されて。ダンスの輪の中心で僕がご機嫌な顔で踊っている(笑)。同行した写真部の人間がついでに撮ったんでしょう。こっぴどく怒

られたのを覚えていますよ。

木村 その英文毎日をお辞めになられて、山陽特殊製鋼に入られましたよね。それまでとは畑違いな業界ですが、これはどういった経緯でお入りになったんですか？

竹村 あの頃、急激に伸びた会社ですね。新たに調査部という部署を設置するから、その部長になってくれと頼まれたんです。普通、大手の鉄鋼会社では四〇歳くらいにならないと部長なんかになれませんから、それならと調査部長になって、すぐに社長と世界一周しました。世界各地で提携話がいっぱいあつて、我々はお金を出す立場だったので非常に大事にしてもらえる。例えばドイツのクルップという会社では創始者の別荘に招待されて、生まれて初めてワインを飲んだりね。あの頃は、世界に出ると新しい体験ばかりでした

よ。帰国後は、年の半分ほど本社に出勤し、残りの半分は調査部長として東京に滞在。しかし実際は東京でずっと本を書いていました(笑)。というのも、東京オリンピックの直前で、英会話の本がよく売れたんですよ。そんな中、僕の書いた『英語会話一週間』という本がベストセラーになりました。以来オリンピック英語を一手に引き受けるようになりました。

ツブームが巻き起こった。その後も「モーニング」からビューティフルへ」「ソフト・ランディング」などが流行語になって、ますます忙しくなったね。

著書は五〇〇冊を超え
テレビやラジオでも活躍

木村 結局、その山陽特殊製鋼は一年でお辞めになられたんですよね。

竹村 そう。今度は追手門学院大学の学長に誘われて、助教授になった。そのうち教授にもなったのですが、それから一年くらいで辞めました。なぜ辞めたかという点、本が次々と売れ出したから。なかでも『5人の猛烈なアメリカ人』という本が当たって、『モーレ

木村 MBSの『ヤングおー！おー！』に出演されていたのは、その頃ですか？

竹村 そやね。司会が桂三枝だったかな。あなたもプロモーターをやっていたでしょ？私とあなたはその頃からの知り合いなんだね。古い付き合いや。

木村 私はまだマネージャーの駆け出しでし





た。当時、竹村さんがマクルーハンをご紹介されていたんじゃないですか。私は竹村さんの書かれたものだけでもマクルーハン関連の本を三冊持っていますよ。そもそもなぜマクルーハンに注目されたのでしょうか？

竹村 たまたま『LIFE』という雑誌の表紙にマクルーハンの写真が載っていて、これは面白そうやと。それで紹介し出したら、日本でもマクルーハンブームが起った。

木村 それにしてもご著書が多いですが、今までに何冊くらい書かれたのですか？

竹村 僕の名前を冠したものでだけでも、ざっと五〇〇冊くらい。世界一ちゃうかな。

木村 それはすごすぎます(笑)

竹村 でも実際書いているわけではないんだね。書くとき間がかかるから、喋るんですよ。僕が喋ったものを文章にしてもらっている。

木村 今も新しい著書は出されているのですか？

竹村 最近はベースが落ちてきてます。もう年やないのかな。

木村 竹村さんといえば、講演料が日本一高いことでも有名ですね。

竹村 そうそう。それで泡銭が入ったから、方々に土地やら山やら買ってね。今でも北海道に一〇〇万坪の土地がある。売れもしないから、ただ持ってるだけ。

木村 一〇〇万坪って(笑)。東京ドーム何個分ですか。

竹村 そこにインドアのテニスコートを作って、横にマンションを建てました。それから

ゴルフ場も作ろうと思ったんだけど、その土地がゴルフ場に適しているか調査するだけで、その調査料が一億五千万円もかかる。アホらしくてやめた。

木村 執筆活動や講演活動のほかに、テレビにも数多く出演されてきました。特にNTVの『世相講談』は大評判でしたが、確かあのときのアシスタントは小池百合子さんでしたよね。

竹村 そう。一〇年くらい一緒にやったね。

木村 それから『報道2001』。私は番組終盤に竹村さんがお話になるコーナーをいつも楽しみにしていましたよ。また、ラジオもTBSラジオ、ニッポン放送、文化放送と各局で長年やってこられましたね。

竹村 TBSが一番長かったですね。『ミッドナイト・プレス・クラブ』いうて、毎週月曜から金曜の真夜中に放送していました。結構ファンも多くてね、例えば元外交官で今よく売れている作家の佐藤優とか。彼は高校時代、午前0時になると受験勉強の手を休めて、私のラジオを聴いていたそうですよ。その他にも、トラックの運転手でね、夜中に東京、大阪間を毎晩僕のラジオを聴きながら運転していた人物がおるんやけど、彼は今オランダで日本人唯一のダイヤモンド業者として活躍しています。

運に恵まれているのは親やご先祖さまのお陰

ということですよ。だけど人生というのは、大きく分けて運のいい人と悪い人がいてね、僕は運がいい人間だと思っています。自分に才能があるなんて言うつもりはありません。ただ、人に言われたことをするのが嫌いで、好きなように生きていたら、こうなった。

木村 また、「知識は一〇年で劣化する」とおっしゃられていますよね。こういういい方は大変失礼ですが、八〇歳を過ぎた方だと、ある程度考え方が固まってくるじゃないですか。しかし竹村さんを拝見していると、新しいことに対しても柔軟で、それがまったく感じられません。

竹村 それは抵抗する気がないからじゃないですかね。何にでも関心を持って、やりたいと思えばやってみる。やりたくなければやらない。ただそれだけです。

木村 テレビなどで竹村さんを拝見していると、横柄で怖い人というイメージを持ちがちですが、実際にお会いしてお話させていたかどうか、全然違いますよね。

竹村 そうでしょ。

木村 テレビなどで見せている姿は仮の姿じゃないかな、と私は思っているのですが。

竹村 いやいや、仮じゃない(笑)。ありのままの姿です。

木村 でも普段から怖い人でしたら、これほどたくさん仕事の依頼ありませんよ。

竹村 自分から売り込んだことは一度もないけれど、不思議と仕事が次々舞い込んできた。僕は人に恵まれている。要するに運がいいん

木村 竹村さんといえば、やはりパイプがトレードマークですが、今もお吸いになられているのですか？

竹村 吸いますよ。ただ、うちの事務所の女の子が喉を悪くしたというから、事務所内は禁煙なんです。だから今回の撮影も吸ってる格好だけをお願いします(笑)

木村 最初からパイプだったのですか？

竹村 いえいえ、紙巻から葉巻、パイプとなって、そのままパイプが定着しました。新聞記者の頃はバタバタ仕事をしてたから吸わなかったんですよ。その後、三〇歳くらいのときに生まれて初めて覚えてね。ちょうど山陽特殊製鋼の部長になったときです。部長と言っても一日中机に座っているだけだから、手持無沙汰で吸ってみた。あの頃は禁煙運動なんてなかったでしょ。だから周りなんか気にせず、堂々と吸ってましたよ。

木村 束縛されるのがお嫌い、好きなことだけをやっていたいとおっしゃられていますよね。しかしそれは才能のある竹村さんだからこそできる生き方で、我々のような凡人には難しいと思います。

竹村 それはね、僕は自分に才能があると思ってる。単にそうしたいだけ。だから、やろうと思えば誰だってそういう生き方ができる。まあ、できる前にクビになるかもしれんけどね(笑)

木村 子どもの頃からそういうお考えだったのですか？

です。では、なぜ運がいいのかと聞かれたら、それは両親や祖父母が世の中のために役立つことをしてくれたからだと思っています。運がいいのは自分の力じゃない。親やご先祖さまが良いことをしたから、神様が自分に運を与えてくれたんだと。僕はそんな変な哲学を持っていらっしゃるんです。そのへんは割かし謙虚な男なんです(笑)

木村 今回はとても謙虚な素顔の竹村さんをお伝えできると思います(笑)。楽しいお話ありがとうございます。

対談後記



どちらかというと、無愛想で気難し
い印象を与えがちな竹村さんであるが、素顔はなかなかチャーミングな人である。こうしてお目にかかるのは何年ぶりのことだろう。約束の時間より少し早く帝国ホテルにある氏の事務所を訪ねたのだが、もうご本人は既にスタンバイされていた。打ち合わせもなく、いきなりトークは始まった。スタッフはと惑ったようだが、これがこの人のスタイルなのだ。対談に際して竹村さんの過去に書かれた著作を読み返したのだが、改めて識見の高さに驚く。帰り際、「これあげる！」と頂いた「これだけ手帳」、よく見ると2011年版。もしかしたら煙にまかれたのか？いやいや、パイプに火葉ついていなかったぞ、たしか。



にっぽん
和

福岡 福岡市



ラーメン、天ぷら、おでん、焼き鳥…
食のまち福岡のシンボル
名物・屋台を満喫しよう！

福岡の夜の代名詞といえ、長浜・中洲・天神の通りに軒を連ねる屋台です。終戦直後、荒廃した町に現れた簡素な移動式飲食店が始まり。今では数多くの店が営業し、地元の人はもちろん、大勢の観光客の胃袋も満たし、毎晩賑いを見せています。ラーメン、天ぷら、モツ鍋、おでん、焼きもの、餃子、焼きラーメン、洋食…と、何を食べても美味しく、しかも安い。また、小さな空間に足を一歩踏み入れれば、居合わせた知らない人同士でも意気投合。すぐに仲良くなれるのも魅力です。絶品グルメに舌鼓を打ちながら、飲んで、話して、笑って、博多の風情を満喫する。暖簾をくぐれば昭和の香りが漂う別世界。昔ながらの味と人情が息づいています。



あなたの街のワンシーンを[動画]で募集します！

にっぽん
和

毎月優秀者を発表！素敵な商品がもらえます。

<http://nippon-biyori-doga.jp/>

詳細は「にっぽん日和動画コンテスト」へアクセスしてください。
facebook <http://www.facebook.com/nipponbiyori>

presented by **DOGA**
シネマテーク動画教室





福岡のまちを見守り続ける

九州一の規模を誇る名城 福岡城跡と舞鶴公園

福岡城は、福岡初代藩主黒田長政によって慶長6年(1601年)から7年の歳月をかけて築かれました。現在、城跡には門・櫓が現存し、多聞櫓とそれに続く二の丸南隅櫓は国の重要文化財に指定されています。またこの城は天守閣がないことでも知られていますが、当時幕府への遠慮から天守は造築されなかったというのが通説です。現在の城跡の大半は舞鶴公園となっており、スポーツ施設や美術館、古代の迎賓館に相当する鴻臚館跡などがあります。また高台の展望台に登れば、福岡タワーや福岡ドームなど福岡市内が一望でき、春になると桜の名所としても人気です。



西新商店街のリヤカー部隊
西新中央商店街の道の中央には、リヤカーがズラリと並び、通称リヤカー部隊があります。産地直送の野菜や近海で獲れる魚介類、花などをリヤカーに積んで販売。いずれも安く新鮮と評判で、連日多くの客で賑わっています。
福岡市早良区西新 4



出雲そば
出雲を代表する郷土料理といえば、そばの実を殻ごと挽く出雲そば。中でも三段の丸い漆器にそばを盛って出す割子そばがもっともポピュラーな形です。だし汁を器に直接入れて食べるのも独自の食べ方。ご賞味あれ!
平和そば本店
出雲市大社町杵築西 2034



菅原道真を祀る天満宮の総本山 学問の神様と梅の名所 太宰府天満宮

901年、京都から大宰府に左遷され、この地で亡くなった菅原道真公を祀る太宰府天満宮。道真公が学問に秀でていたことから学問の神様として崇敬を集め、現在も受験合格や学業成就などを祈願する参拝客で、一年中賑いを見せています。また、2月上旬から3月中旬になると境内を艶やかに彩る梅も見どころの一つです。道真公を慕い、京から飛んできたといわれる神木・飛梅をはじめ、その数は約6000本。これらの梅は「猷梅」といって全国各地より天神さまに捧げられたもので、極早咲から極遅咲まで、約197種類もの品種があるとされています。さらに参道を歩けば、梅にちなんだ名物饅頭「梅ヶ枝餅」や「合格ちくわ」、「鬼瓦もなか」など、天神さまに由来ある縁起もののお土産が数多く揃っています。

太宰府天満宮

菅原道真を祭神として祀る天満宮の一つ。初詣の際には九州はもとより日本全国から毎年200万人以上の参詣者が訪れます。現在、京都の北野天満宮とともに全国天満宮の総本社とされ、また菅公の霊廟として篤く信仰されています。
福岡県太宰府市宰府 4-7-1



太鼓橋

「心」の字をかたどった心字池には、太鼓橋・平橋・太鼓橋の順に3つの橋が架けられており、この3つの橋は仏教思想の過去・現在・未来という三世一念が表現されています。渡ることによって「三世の邪念を誂う」と言われ、参拝者の身を清める橋だそうです。



合格祈願

絵馬に受験合格や学業成就などの願いを込めて。



博多人形

人形師はまず、粘土で原型を作り、石膏で凹面の型を取ります。これに薄く粘土を張りつけて生地を作り、800~900度で焼き上げます。この人形に彩色して仕上げるのですが、顔は最後で、中でも「目」は最後の最後に入れます。



「博多町家」ふるさと館

明治中期に建てられた町家を移築した町家棟、展示棟、みやげ処の3つの建物からなり、展示棟では「博多っ子文化」の博多祇園山笠の迫力満点の動画をはじめ、博多弁講座や、古き良き時代の博多のミニチュア町風景が楽しめます。
福岡市博多区冷泉町 6-10



受け継がれる芸術・文化

博多人形の匠の技と 古き良き博多の町を体感

福岡を代表する伝統工芸品といえば博多人形。関ヶ原の合戦で功績のあった黒田長政が慶長5年に筑前52万石の太守として入国し、新たに福岡城を築造した際、瓦師の正木宗七が、瓦粘土で人形を作って長政に献じたのが起源と伝えられています。その後、江戸時代後期の文化年間、陶工師の中ノ子安兵衛・吉兵衛親子が彫刻の技法を採り入れた雛人形、五月人形を作って商品化。博多の特産品として日本全国にその名が知れ渡っていきました。博多人形というと美人物がよく知られていますが、近年は時代のニーズに合わせた多彩な作品が作られており、いずれも優美で繊細、情緒豊かな雰囲気が特徴です。

明治・大正時代の博多の暮らしと文化を楽しく紹介する施設「博多町家」ふるさと館では、そんな博多人形や博多織の実演を行っています。ぜひ一度、人形師の匠の技を間近で見学してみてください。



ひよ子本舗 吉野堂
その独特なかわいい形と優しい風味で親しまれている銘菓・ひよ子。平成 24 年に生誕 100 年を迎えます。



博多あまおう

6 年という長い年月をかけて研究開発され、誕生したこの品種は、福岡県限定で生産されている大変稀少価値の高いイチゴ。その美味しさから国内はもちろん、台湾や香港などにも輸出され、海外でも高い人気を誇ります。

思わず顔もほころぶ…

**福岡が誇るイチゴと銘菓
甘味を食べ歩こう！**

食後のデザートもお楽しみの一つ。定番の菓子から新鮮な果物まで、福岡には美味しいスイーツも充実しています。まずはイチゴの王様・博多あまおう。大粒なイチゴを一口頬張れば、果肉から果汁がジュワーと溢れ出し、濃い甘味が口の中いっぱいに広がります。続いてお菓子をご紹介します。博多土産の定番である銘菓・ひよ子は、誰もが知る納得の味です。唐人町商店街近くにある板谷商店の黒門飴は、優しい甘さがクセになる昔懐かしい一品。また歴史ある川端ぜんざいも、長年福岡の人々に愛され続けています。

板谷商店の黒門飴

明治時代から続く板谷商店は、市内に唯一残る手作り飴屋。名物の黒門飴は、飴の袋の中に茶色い粉末状の米ヌカがまぶされているのが特徴です。また地元ではこの飴を食べると母乳に恵まれるという言い伝えがあります。福岡市中央区荒戸 3-10-1



JAL 飛行機 早朝 7 時 25 分に JAL で羽田を飛び立ち、8 時 55 分にはもう出雲縁結び空港着。身の引き締まるような寒さの中、ヤマタノオロチ神話で知られる斐伊川を越え、一路出雲大社へ。4 つの鳥居をくぐって、作法通り腰を 90 度に折り、2 拝・4 拍手・1 礼でお参り。「果たして今年はどんな良縁に恵まれるのだろうか？ いや、お賽銭のわりに沢山お願いをしすぎたかも？」帰り道、清々しい風に吹かれながら松の参道を歩きつつ、そんなことを考えていた。10 月の神在月にはもう 1 度 JAL で来て、ぜひとも神々様にお詫びをしなければ！ 木村政雄



糸島・唐泊の牡蠣小屋
冬の季節、ここ糸島ではあちこちに「焼きカキ」のノボリが立ち、各地から牡蠣目当ての人が押し寄せます。とれたての牡蠣をその場で焼いて食べる美味しさは格別です。



博多 華味鳥 西中洲店
水炊きの名店・華味鳥では、鶏の飼育から調理まで一貫して行っています。大切に育てた鶏と、素材を活かした自慢のスープ、そしてこだわりのポン酢。その三位一体が生み出す味わいをぜひご賞味あれ！
福岡市中央区西中洲 12-11



新鮮な海の幸から絶品鍋まで

**旨いものが目白押し！
福岡グルメを味わいつくす**

福岡といえば日本一の食のまち。ラーメン、モツ鍋、うどん、明太子…と数えあげればキリがありません。なかでも福岡は海や山に囲まれていることから、魚介や肉、野菜など美味しい自然の恵みで溢れています。そこでまずオススメしたいのが牡蠣です。玄界灘に面する糸島半島は牡蠣街道として知られ、毎年冬になると糸島市内の 6 つの地区に 20 数軒もの牡蠣小屋がオープンし、連日大勢の人で賑わいます。糸島の牡蠣は、新鮮かつ安全で、身が大きくてリーズナブル。もちろん味は一級品で、一度食べ始めたら止まりません。

海の幸といえばもう一つ、博多湾に浮かぶ能古島の絶品漁師料理をオススメしましょう。渡船場近くにある『雑魚』では、とれたて新鮮な魚をお好みで料理してくれます。一番の人気は日替わり雑魚定食。その日の仕入れで何が出てくるのかお楽しみ定の食です。

また福岡は、美味しい鍋類も豊富。なかでもぜひ味わっていただきたいのが水炊きです。日本四大鶏鍋料理に挙げられる鶏スープが魅力的な博多水炊きは、コラーゲンたっぷり女性にも大人気。とろける鶏肉、ダシの効いたスープ、そして締めのおじやも絶品です。



雑魚 (ざっご)
一番人気の日替わり雑魚定食は、その日仕入れた魚の煮つけ、お造り、唐揚げ…などボリューム満点。他にもゴマサバ井や海鮮井、フグのフライなどいただき、スタッフ一同大満足でした。
福岡市西区能古 462



ファイブエル ミシラン[★]



表面はパリっと、中はふんわり。 独自の技で焼き上げる絶品鰻重 吉塚うなぎ屋

絶品グルメの宝庫・福岡。ラーメンやモツ鍋も
いいけれど、今回ぜひ紹介したいのは鰻である。
そして福岡の鰻屋といえば、博多区中洲に店を構
える吉塚うなぎ屋を外すことはできないだろう。
明治六年の創業以来、長年この地で地元の人たち
に愛され続ける老舗だ。

この店の鰻の特徴は、独自の焼き方にある。そ
れが、鰻を揉みたたきながら焼き上げる「こなし」
という技術。焼きの段階で、表面に浮き出た脂を
通して鰻に熱を加えるため、焼くというよりも、
むしろ揚げる感覚に近い。だから表面はパリッと
した香ばしい食感に、中はふんわりと焼き上がる。
このパリッ感是他では決して味わえない、病み
つきになる魅力だ。ここに秘伝の濃い目のタレが
じんわりと染み込み、ご飯と一緒にひと口頬ばれ
ば、思わずニンマリ。しかも余分な脂は落ちてい
るので、意外とあっさりしているのも嬉しい。

五代目主人の徳安憲一さんは、素材にも深いこ
だわりを持っている。良質な鰻を徹底的に吟味す
るだけでなく、実際に産地を回って生産者の顔や
声をビデオに収録。それを店先のモニターに流し、
お客さんに観てもらっているのだ。

「生産者からお客さんに直接語りかけてもらおう。
だから生産者も手を抜けませんよね。産地が問題
ではなく、誰がどう育てたかが大事なんです。私
の願いは一つだけ。鰻に成仏してもらいたい。『美
味しかったよ』というお客さんのひと言が、鰻を
成仏させると信じ、毎日美味しい鰻を提供してい
ます」

「いつ食べても変わらない味——。それが鰻を愛
するご主人の一番のこだわりである。」



吉塚うなぎ屋
福岡市博多区中洲2-8-27
TEL.092-271-0700
【営業時間】11:00~20:30(L.O.)
【定休日】水曜日

学校と地域が手を取り合って、目指すは「日本一の小学校」



西 祐治
福岡教育大学卒業後、1981年に福岡市立博多小学校へ赴任。1998年、博多小学校が開校する直前までは、統合された4つの小学校の一つ、奈良屋小学校に勤務。2004年に教頭として西高宮小学校へ。2009年に福岡市立北崎小学校へ校長として赴任。2010年より現職。



オープンスクールは子どもたちの自主性を伸ばし、協調性や団結力なども育む。



オープンスペースの一角に置かれた先生のデスク。廊下の端から端まで目が届く。

「学校はまち、まちは学校」をコンセプトに、四つの小学校が統合して誕生した福岡市立博多小学校。ガラス張りの校舎、教室に仕切りがないオープンスクール形式など、かつてないユニークな公立小学校として話題を集めている。学校と地域が一体となって、掲げた合言葉は「日本一の小学校を作ろう」――。その中心で舵を取る西祐治校長に話を伺った。

学校を「まち」に変える新しい形の小学校が誕生

ガラス張りの校舎、壁のない開放された教室、学校全体をつなぐ空中デッキ、階段型の客席を持った舞台空間……と、いずれも従来の学校のイメージを覆すものばかり。福岡市立博多小学校は、そんなまったく新しいスタイルの学校として全国から注目を集めている。

開校は一九九八年。空洞化によって児童数が激減していた福岡市都心部の四つの小学校が統合して生まれた。しかし誕生に至るまでに、障壁がまったくなかったわけではない。そもそも四つの校区は、博多祇園山笠で競い合うなど、互いにライバル意識・自治意識が強く、統廃合に反対する声も少なくなかったという。そうした中、どのようにして地域を一つにまとめたのか。当時、四つの小学校の一つ、奈良屋小学校で教員を務め、一昨年に博多小学校へ校長として赴任した西祐治氏はこう語る。

「最終的にみんなが一つになれたのは、日本一の小学校を作ろう」という高いビジョンを共有できたから。日本一の小学校とは、学力面や環境面の向上はもちろん、何より子どもたちが地元を誇りを持ち、愛すること。博多小学校には、そうした地域の人たちの想いが込められているのです」

「日本一の学校」を実現させるべく、福岡市はプロポーザル・コンペ形式でアイデアを公募。そして選ばれたのが、建築家・工藤和



- memo.
- 20大都市(東京23区と政令指定都市)の中における福岡市の気質は?
- ・居住年数が10年未満の割合が1位
→転勤者が多い
 - ・従業者のうち、サービス業従事者の割合が1位
→サービス精神が旺盛?
 - ・女性の未婚率が1位
→独身男性にとって吉報?
 - ・会社を起業する女性の割合が1位
→元気な女性が多い
 - ・15~29歳の女性の割合が1位
→若い世代が福岡を盛り上げる!

人と環境と都市の調和を目指し アジアのリーダー都市になろう!



市長対談

福岡県
福岡市長 高島宗一郎

福岡は日本一、いやアジア一の、食のまち。だと自負しております。魚、肉、ラーメンに鍋類……。美味しくて、安くて、オリジナリティに溢れ、オススメしたいお店もたくさんあります。そんな中、多くの方が博多の食文化として思い浮かべるのが、屋台ではないでしょうか。近年、跡継ぎ等の問題でその数は減少傾向にありますが、屋台は市の重要な文化であり観光資源ですので、今後も大切に守っていかなくてはなりません。そしてゆくゆくは屋台だけでなく、公共空間の再配置をテーマに、例えば昼間は歩道沿いにオープンカフェが並んでいるような、歩いて楽しい街づくりを進めていきたいです。実は福岡市は、観光という視点で街づくりをされたことが、歴史上一度もありません。例えば福岡には、この地を発祥とするものが数多くあります。元寇防塁や志賀島の金印、古代日本を代表する氏族・阿曇氏。お茶や蕎麦、饅頭、稲作、製鉄技術などもすべて福岡が始まり。しかし、こうした事実を地元・福岡の人たちも意外と知らないのです。そこでこの四月から経済観光文化局を開設し、歴史

「この環境はどこにも負けません。あとは私たち教師がしっかりと指導するだけ。先生たちには常に子どもの身になって指導するよう伝えていきます。一方子どもたちには、何事も心を込めて丁寧に取り組んでほしいと、挨拶、掃除、目当て、時間をきちんと決めて守ること。そういう心掛けが大切だと。私はこの学校が真の意味で、日本一の小学校になることと固く信じています」

西校長を中心に、先生たち、そして地域の人たちが手を取り合いながら、日本一の学校作りは着々と実現の日に近づいている。

『にっぽん日和』で訪れた福岡市の高島宗一郎市長を表敬訪問。 福岡市の魅力やまちづくりのビジョンなどをお伺いしました。

福岡は日本一、いやアジア一の、食のまち。だと自負しております。魚、肉、ラーメンに鍋類……。美味しくて、安くて、オリジナリティに溢れ、オススメしたいお店もたくさんあります。そんな中、多くの方が博多の食文化として思い浮かべるのが、屋台ではないでしょうか。近年、跡継ぎ等の問題でその数は減少傾向にありますが、屋台は市の重要な文化であり観光資源ですので、今後も大切に守っていかなくてはなりません。そしてゆくゆくは屋台だけでなく、公共空間の再配置をテーマに、例えば昼間は歩道沿いにオープンカフェが並んでいるような、歩いて楽しい街づくりを進めていきたいです。実は福岡市は、観光という視点で街づくりをされたことが、歴史上一度もありません。例えば福岡には、この地を発祥とするものが数多くあります。元寇防塁や志賀島の金印、古代日本を代表する氏族・阿曇氏。お茶や蕎麦、饅頭、稲作、製鉄技術などもすべて福岡が始まり。しかし、こうした事実を地元・福岡の人たちも意外と知らないのです。そこでこの四月から経済観光文化局を開設し、歴史

を含めた福岡の魅力を積極的にアピールしていきたいと考えております。

福岡市は昨年来、日本海側拠点港、国際戦略総合特区、特定都市再生緊急整備地域など、国から続々と重要な位置づけがされました。そうした中、対アジアという面では担うべき役割が大きいです。特に物流面でいいますと、アジアから物を運ぶ場合、ほとんどが船でやって来るのですが、同じ船で福岡に運ぶのと、大阪や東京に運ぶのとでは、福岡のほうが一日程度早く到着します。しかも福岡は五キロ圏内に港・駅・空港が全部揃っている。アジアの時代が到来した今、福岡市の役割はより一層重要なものになるでしょう。

合言葉は「アジアの玄関」から「アジアのリーダー都市」に。それを実現させるためには、世界から尊敬される必要があります。ではどのような街が尊敬されるのか。それは、人と環境と都市の調和がとれた街。それこそが、今から人類が目指していくべき街づくりのモデルになるのではないのでしょうか。そして福岡にはその環境がすべて揃っています。



ビジョナリーな人たち 西 祐治 福岡市立博多小学校 校長

「給食の時間はランチルームで一年生と六年生が隣り合って食事をし、休み時間などでも上級生が下級生の手を引いて遊んでいますよ。また教員スペースにも壁がないため、先生たちの目が隅々まで届く。だからイジメはありません。他にも、隣のクラスの迷惑になるので、チャイムが鳴ったらすぐに席につく。目立つ

美氏による『学校はまち、まちは学校』というコンセプトだった。これは、学校を閉じた空間にせず、広く地域を巻き込もうというものだ。プロジェクトの段階からプロセスをすべてオープンにし、地域同士の意見交換会、ワークショップなどを開催。関わった人々の当事者意識を高め、まさに地域による地域のための学校作りが行われた。それが今、博多小学校と地域が一体となっている所以である。

ユニークで画期的な オープンスクールを実現

この学校の最大の特徴はオープンスクールである点だろう。教室の壁を取り払い、学習空間をオープンにし、しかも廊下を挟んで両側に教室を配置しているのも一般的な学校の作りとは違う。また校舎内にはガラス張りも多く、とにかく開放的だ。これによって子どもたちはクラスや学年の枠を超え、自由にのびのびと多様な学びを受けられる。

木村の視点

全国から自治体や教育関係者の視察が引きも切らないという。まるで美術館と見まがうかのようなアプローチの先にあるのは、思い切った仕切りを排除したオープンな空間。教室ごとの区切りも、職員室の区切りもない。異学年の生徒が共にできる広い食堂、可動式

床のプール。たしかに子どもたちは明るいし、礼儀も正しい。まさに、アメリカの教育学者デューイの言った「社会と共に在る学校」のある種理想的な在り方を具現しているかのようだ。隈なく校内を案内していただいた西校長が最後に一言、「私は別に何もしていません、



福岡大空襲で焼け残った旧奈良屋小学校の扉の前で

ただ学年主任の先生方が頑張ってくれて、いるだけなんです。いくぶんの謙遜を込めてそう語られた口調がちょっぴり誇らしげだった。